

酒田・飽海大豆情報

第2号

令和4年6月8日

播種適期は6/10まで!

酒田農業技術普及課
TEL 22-6521
FAX 22-6522

遅れる圃場では播種量増対応しよう

5月中に播種した圃場では順調に出芽・葉齢展開していますが、5月下旬からの降雨により播種作業が滞っています。これから播種する場合、播種量を2～3割増やしましょう。また、今後まとまった降雨を想定しておく必要があります。3葉期の中耕培土作業を適期に実施するためにも、明渠の手直しを行うなど、排水対策を徹底しましょう!

I 晩播対策

播種期が遅れると生育量が小さくなって減収するため、栽植密度を増加させ(株間の幅を小さくし)、栽植本数を確保する必要があります。

10a 当たりの播種量の目安 (条間 75cm、2 粒播き)

当初予定播種量 株間 20cm	6月中旬(1.3倍) 株間 15cm	6月下旬(1.5倍) 株間 13cm
3.5 kg	4.5 kg	5.3 kg
4.0 kg	5.2 kg	6.0 kg
4.5 kg	5.8 kg	6.8 kg

II ネキリムシ被害に注意!

今のところ被害は確認されていませんが、成虫は広葉雑草に産卵するので、圃場周辺の除草を徹底し、被害が見られるときは薬剤防除を実施してください(本葉2葉まで)。

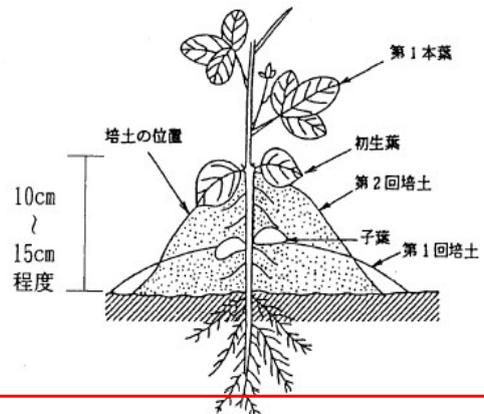
III 中耕培土の適期

品質・収量を左右する必須の作業です。適期を見極めて、確実に実施してください。

5月中に播種した圃場の中耕培土の適期は以下のとおりです。

◎1回目の培土(3葉期)6月15日～25日頃

◎2回目の培土(6～7葉期)7月5日～20日頃



※開花(7/下～8/上頃)1週間前までに終わらしましょう。

※株元の培土部分が凹状になると水が溜まり立枯性病害が発生しやすくなるので、必ず凸状にしてください。

※追肥を行う場合は2回目の培土の時期に合わせて、「LPコート70」(緩効性)を 20 kg(N成分 8kg)/10a、または「尿素」(速効性)を 10 kg(N成分 4kg)/10a を全面散布し、その後培土を実施します。

IV 発生草種に応じた除草剤の使用

大豆畑の難防除雑草
この雑草に注意!



イヌホオズキ



ホソアオゲイトウ



ツユクサ

① 広葉雑草が多い圃場用の除草剤(大豆生育期に登録のある主な除草剤)

除草剤名 (使用回数)	適用 雑草名	10a 当り使用量		使用時期	留意点
		薬量	希釈水量		
大豆バサグラン液剤(ナトリウム塩) (1回)	1年生雑草 (イネ科を除く)	100 ～ 150ml	1000	大豆の2葉期～開花前(雑草の生育初期～6葉期、収穫45日前まで)	※雑草茎葉散布または全面散布 ・イネ科雑草には効果がない ・イヌホオズキ・ツユクサ・シロザには効果が低い
		300 ～ 500ml		大豆の生育期(雑草の生育初期～6葉期、収穫45日前まで)	※畦間雑草茎葉散布
ロックス ※非選択性 (1回)	1年生雑草	100 ～ 200g	70～150ℓ	大豆の本葉3葉期以降、雑草生育期(収穫30日前まで)	※雑草茎葉兼土壌散布(畦間・株間処理) ※薬害注意 ・大豆本葉にかからないよう専用ノズルで株元に散布 ・イネ科雑草・ツユクサには効果が低い
バスタ液剤 ※非選択性 (3回以内)		300 ～ 500ml		100～150ℓ	雑草生育期、畦間処理。収穫28日前まで(大豆5葉期以降は株間処理も可能)

➡ 非選択性除草剤は大豆の葉にかかると葉の褐変や枯死などの薬害が発生します。広葉雑草に効果のある除草剤では、大豆にかからないように畦間・株間に散布するものがあります。散布者が責任を持ってきちんと確かめましょう。

☆ 散布時に雑草が大きいと残草しやすくなります。残草は、実がつく前に圃場外へ排出しましょう。



② イネ科雑草が多い圃場用の除草剤(大豆生育期に登録のある主な除草剤)

除草剤名 (使用回数)	適用 雑草名	10a 当り使用量		使用時期	留意点
		薬量	希釈水量		
ワンサイドP 乳剤(1回)	1年生イネ科雑草	100ml	50～1000	雑草生育期(イネ科雑草の5～8葉期、収穫60日前まで)	・雑草茎葉散布又は全面散布 ・スズメノカタビラには効果がない ・遅効性で、イネ科雑草の枯死まで10日～3週間程度かかる場合がある
ポルト フロアブル (1回)		200～ 300ml		雑草生育期(イネ科雑草の3～10葉期、収穫30日前まで)	・雑草茎葉散布または全面散布 ・スズメノカタビラには効果がない ・イネ科雑草の枯死まで7日程度を要する

☆ 水稻など、周辺の作物へ飛散しないよう風向・風速に十分に留意して散布しましょう。